

据付説明書

Cleansui

クリンスイ

品番 AL700T

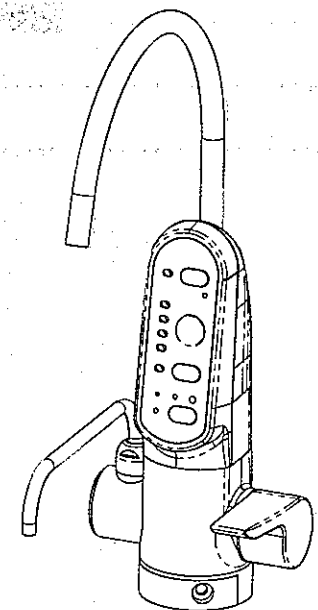
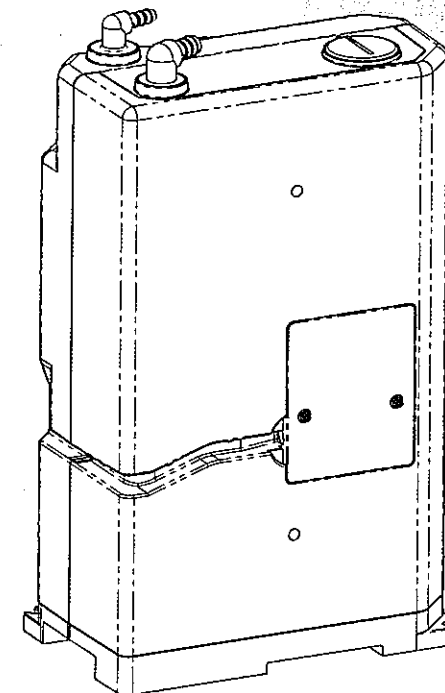
- 据付は、この「据付説明書」に従って正しく設置してください。
- シンクの種類、フロアキャビネットの組合せにより、配管・接続が異なりますのでご注意ください。
- 最終点検(水漏れ、動作および通水量確認)は、必ず行ってください。

- 据付終了後、取扱説明書・保証書・pH測定液・および据付説明書は必ずお客様にお渡しください。
- 正しい設置をされなかった場合の製品の故障および事故について、当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

家庭用

三菱レイヨン・クリンスイ

ビルトインアルカリ整水器D01



●商品に関するお問い合わせは下記までお願いします。

クリンスイサービスセンターU係

☎0120-328-432

受付時間/平日10:00~17:00(土・日・祝日10:00~16:00)

目次

安全のために必ずお守りください	4
アルカリ整水器・アルカリ整水器専用水栓 ・カートリッジ据付場所の選定	7
梱包部品	8
工具一覧	9
付属部品使用位置確認図	10
据付例	11
据付の前に（必ず確認してください）	12
器具の据付	
コンセントの取り付け	14
アルカリ整水器専用水栓の据付方	15
配管	17
アルカリ整水器本体の据付	20
カートリッジの据付	22
吐水、排水ホースの接続	23
水栓操作ケーブルの接続	24
浄水能力の設定	25
最終点検	26

シンボルマークの解説

下記のシンボルマークが付いている注意事項は、お使いになる方や他の人への危害や損害を未然に防止するためのものです。

必ずお読みいただき、指示にしたがってください。

危険度の目安



警告

誤った取扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度を示しています。



注意

誤った取扱いをすると、使用者が軽傷を負うことが想定されるかまたは物的損害(家屋・家財など)の発生が想定される危害・損害の程度を示しています。

表示マークの説明

マーク	タイトル	意 味
	一般注意	特定しない一般的な注意を示す表示。
	一般禁止	製品の取扱いにおいてその行為を禁止（しないでください）する表示。
	一般指示	使用者に対し指示に基づく行為を強制（必ずしてください）する表示。
	水ぬれ禁止	本器を水がかかる場所で使用したり、水にぬらすなどして使用すると漏電によって感電や発火の可能性を示す表示。
	風呂、シャワー室での使用禁止	本器を風呂、シャワー室で使用すると、漏電によって感電や発火の可能性を示す表示。
	ぬれ手禁止	本器をぬれた手で扱うと感電する可能性を示す表示。
	電源プラグをコンセントから抜け。	使用者に電源プラグをコンセントから抜くように指示する表示。
	火気禁止	外部の火気によって発火する可能性を示す表示。
	分解禁止	本器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性を示す表示。



警告

配管工事はすべて建築基準法、水道法、各都市の条例規定に準じて行う。

コンセントの設置は、電気設備技術基準や内線規程に従い、確実にを行う。
誤った電気工事は、火災や感電の原因。

設置は、この据付説明書に従って、確実にを行う。
設置に不備があると、火災・感電・事故の原因。

電源プラグはコンセントに根元まで差し込む。
差し込みが不十分だと、感電や発熱による火災の原因。

電源コードは、引き出しのレールや、扉に挟まれないように配線する。
コードが断線したり、損傷して、感電、ショート火災の原因。

飲料水に合格した水(水道水など)以外は使用しない。
温泉水、井戸水など異物を多く含む水はご使用になれません。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100V以外での使用はしない。
火災、感電、故障の原因。

電源コード・電源プラグが損傷するようなことやコードの延長はしない。
・ステープル（）などで固定する ・傷つける ・加工する ・無理に曲げる
・ねじる ・引っ張る ・熱器具に近づける ・重いものを載せる ・束ねる
・はさみ込むなどをしない。傷んだまま使用すると、感電、ショート、火災の原因。
※電源プラグをコンセントから抜くときは、コードを持たずに電源プラグを持って抜く。

本器の改造、分解、修理は絶対にしない。火災、感電、故障の原因。

濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない。感電の原因。

安全のために必ずお守りください



一次給水側は、特に水漏れがないように確実に接続する。
万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

本器は、アルカリ整水器本体・カートリッジ・付属の水栓および設置部材をセットで使用する。万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になります。

アルカリ整水器本体は平らな場所に設置する。
不安定な場所に設置すると、転倒等により水漏れの原因。

配管は、水漏れのしないよう確実に行う。
特に固定金具（クイックファスナー）などは、確実に取り付ける。
確実に接続されていないと、ホースがはずれて漏水し、大きな補償問題になることがあります。



天板や、流し台（キャビネット内）に穴を開けるときは、屋内配管に傷をつけない。
万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

天板が厚さ30mm超の場合は穴あけしない。
取付けができませんので、穴を開けた場合、補償問題になることがあります。

壁面取付タイプの水栓には、取り付けない。
配管が不明確なので、取り付けができなかったときに補償問題になることがあります。

凍結の恐れのある場所には設置しない。
アルカリ整水器本体、カートリッジ等が凍結割れし、水漏れの原因。

ホース類を、折り曲げたり、ねじったり、ひっぱったりしない。
水漏れの原因。

アルカリ整水器専用水栓の先に他の機器を接続しない。
水漏れや機器の故障の原因。

先止め方式の配管に改造しない。
アルカリ整水器本体に常時水圧がかかり、ウォーターハンマーなどにより、水漏れの原因。
万一、水漏れがおこると、大きな補償問題になることがあります。



ホーロー、天然石のシンク天板に穴を開ける場合は、キッチンメーカーに相談する。
無理に穴をあけようとすると、シンク天板を破損する原因。

天板の穴開けには、材質に合った工具を使う。
無理に穴をあけようとすると、シンク天板を破損する原因。

アルカリ整水器・アルカリ整水器専用水栓・カートリッジ据付場所の選定

■ 次のような場所には設置しないでください。（故障の原因になることがあります。）

- 高温部（40℃以上）の近く ● 浴室や水・蒸気のかかる所 ● 屋外や風雨にさらされる場所
- 油の付着する場所 ● 凍結の恐れのある場所（本器は寒冷地仕様ではありません。）

■ 本器具の使用可能配水管圧力は0.07～0.75MPa（0.7～7.5kgf/cm²）、常用使用圧力は0.07～0.35MPa（0.7～3.5kgf/cm²）です。止水栓以降の配水管圧力が0.35MPa（3.5kgf/cm²）を超える場合、市販の減圧弁で0.2MPa（2.0kgf/cm²）程度に減圧してください。

■ 配管工事はすべて建築基準法、水道法、各都市の条例規定に準じて行ってください。

■ 水道法基準適合の認証品ですので必ず同梱の各部品をセットでご使用ください。

■ アルカリ整水器本体を設置する前に、電源コンセント（交流100V）をシンク下（流し台下）に取り付けてください。

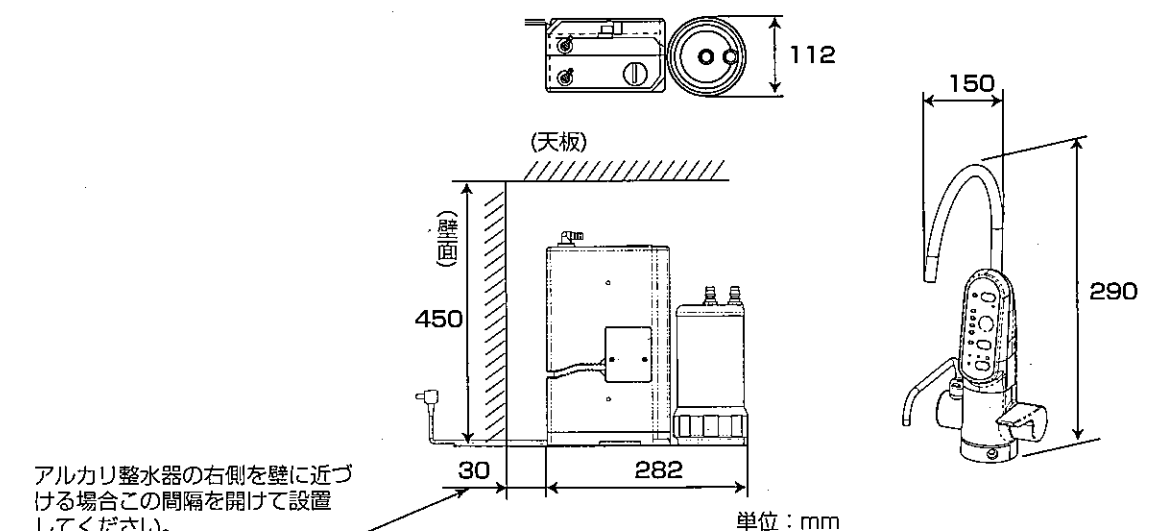
■ 設置場所は下記条件を考慮し、お客様とご相談のうえ設置してください。

＜アルカリ整水器専用水栓の設置＞

- 混合水栓から40cm以内の場所に設置してください。
- 障害物がなくレバー操作スペースが確保できる場所に設置してください。
- 水栓本体を支えられる場所に設置してください。
- 昇降式のキャビネットがある場合は、可動部が接触しない位置に設置してください。

＜アルカリ整水器本体・カートリッジの設置＞

- 止水栓の各々がフレキ管（約60cm）、カートリッジIN・OUTホース（約80cm）およびアルカリ整水器吐水・排水ホース（約90cm）で接続できる場所に設置してください。
- 各部材は、既設の配管にぶつからない場所に設置してください。
カートリッジの交換、カルシウム添加が容易にできるスペースを考慮してください。
（カートリッジの交換、カルシウム添加を容易に行うためには、最低でも下図のスペースが必要です。）

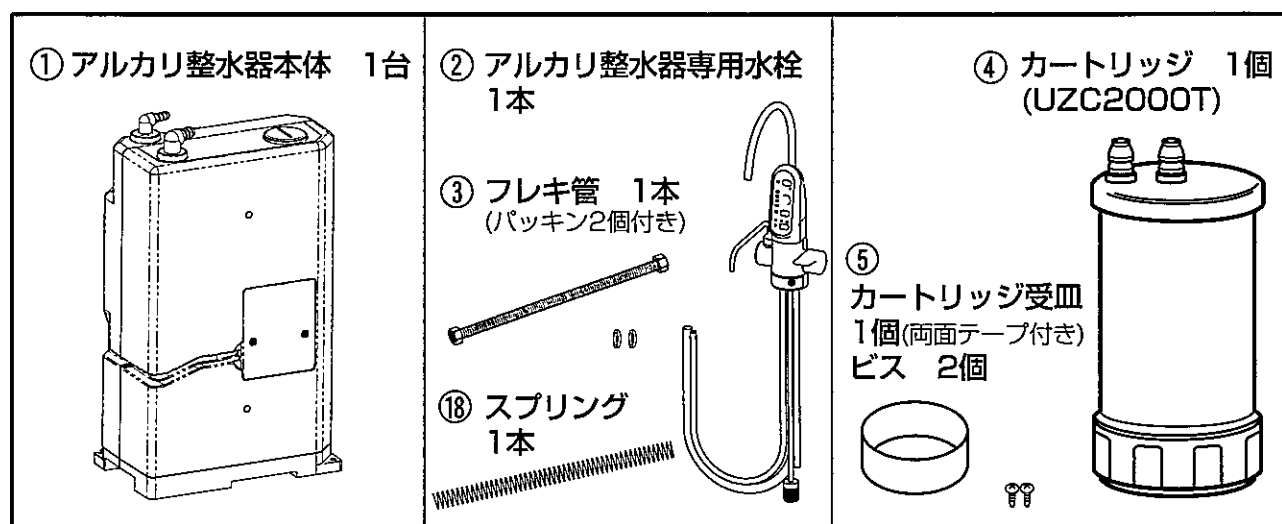


■ ビスや両面テープで、カートリッジ受皿およびアルカリ整水器本体を十分に支えられる場所に設置してください。

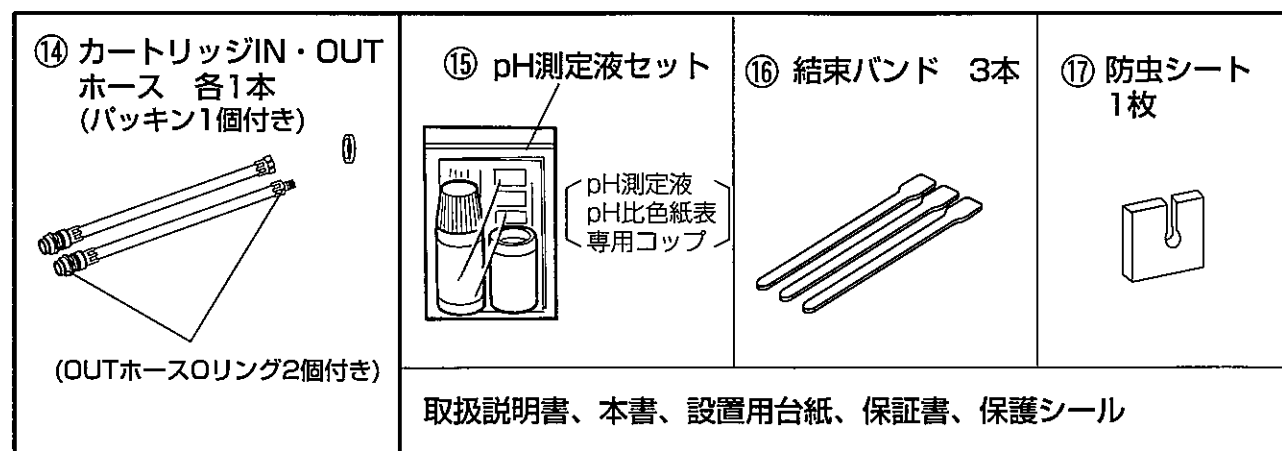
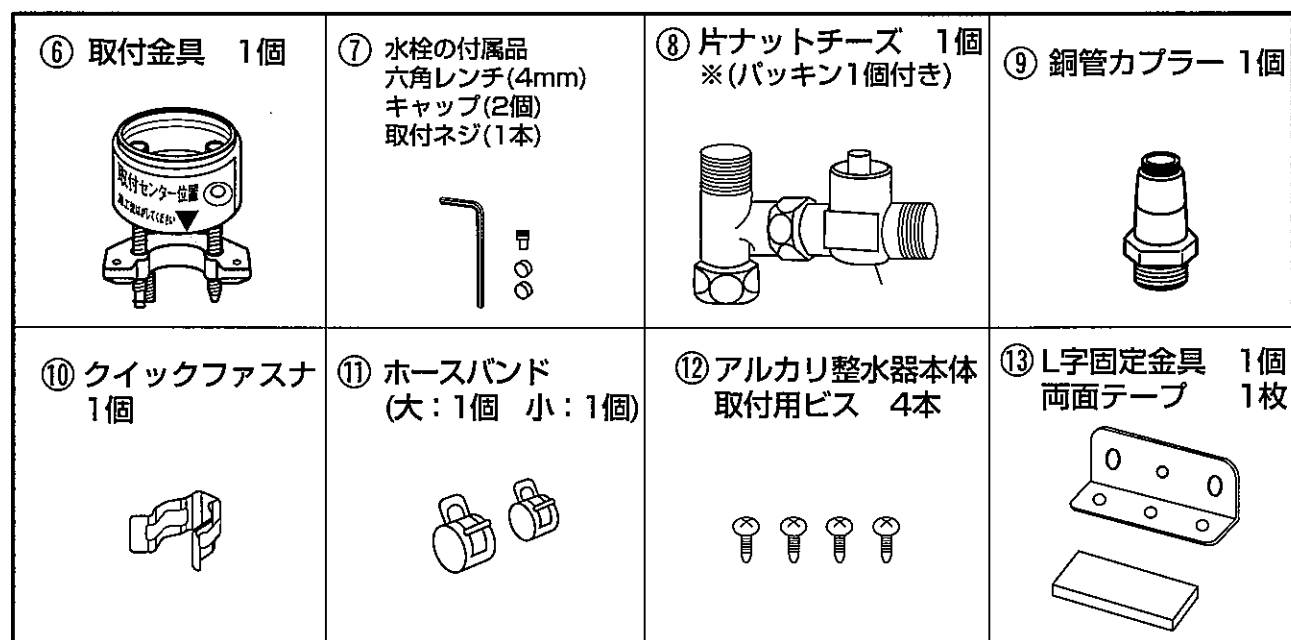
■ 据付の際に、流し台の構造や材質などの確認は、キッチンメーカーへ直接お問合せください。

梱包部品

最初に下記部品がそろっているかご確認ください。



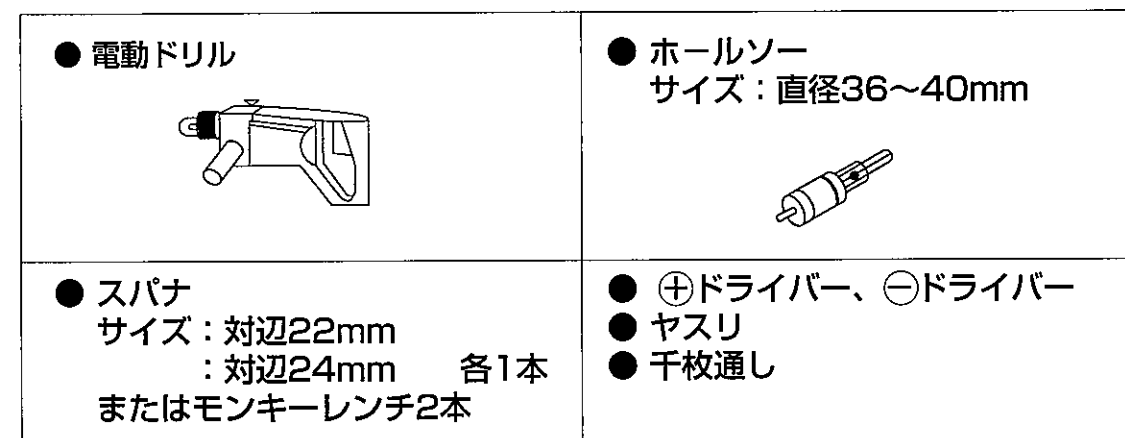
部品箱 (アルカリ整水器専用水栓箱内)



※片ナットチーズと止水栓は組付けてありますが、据付時には必ず増し締めしてください。

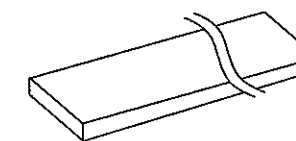
工具一覧

■据付には、下記の工具が必要です。(別途準備してください)



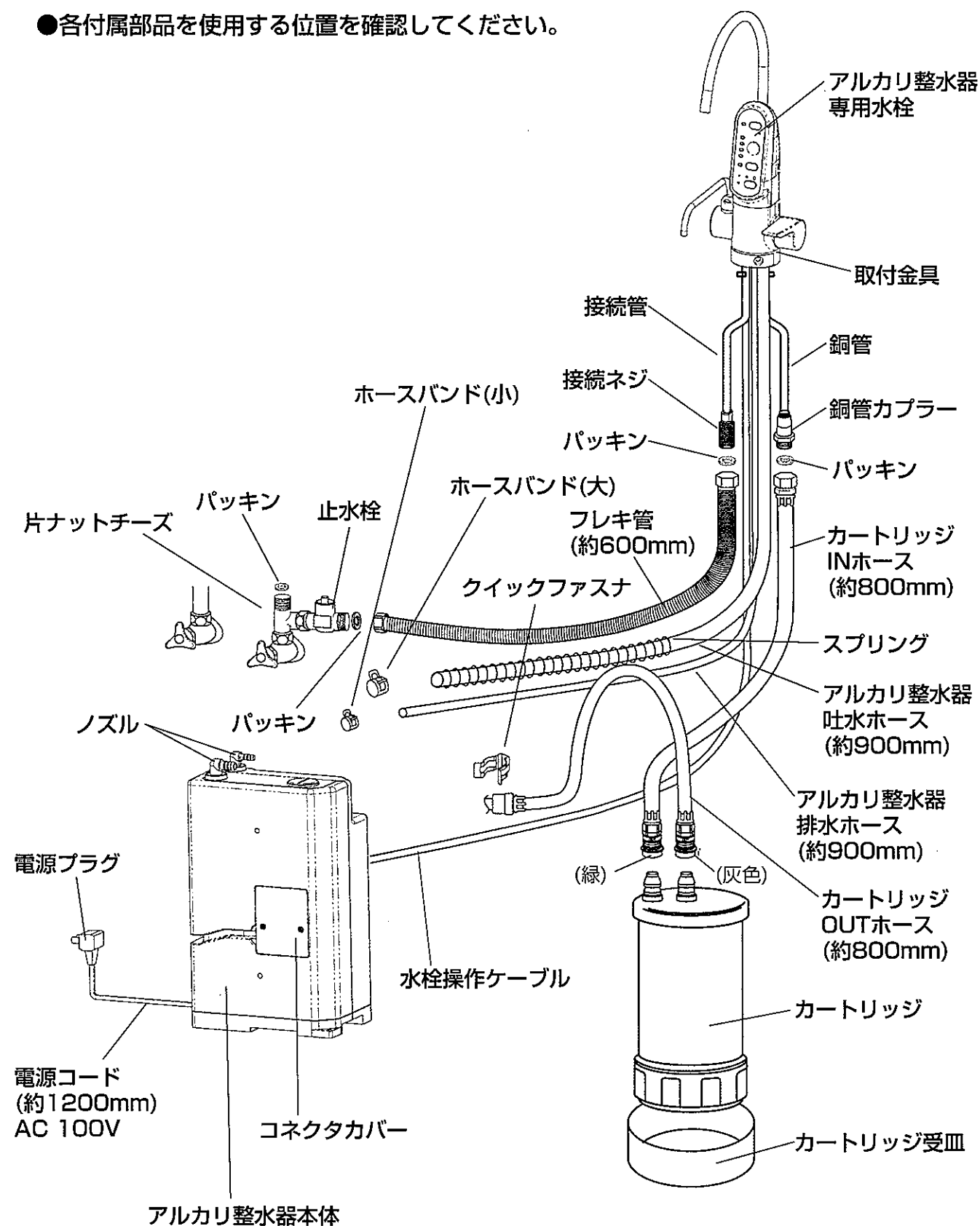
■流し台や配管方法によって必要な部品 (別途準備してください)

ステンレス製の天板で補強板がついていない場合、補強板がついていても、天板との厚さが4mm未満の場合
● 補強板 (厚さ10mm ~ 15mm)



付属部品使用位置確認図

●各付属部品を使用する位置を確認してください。

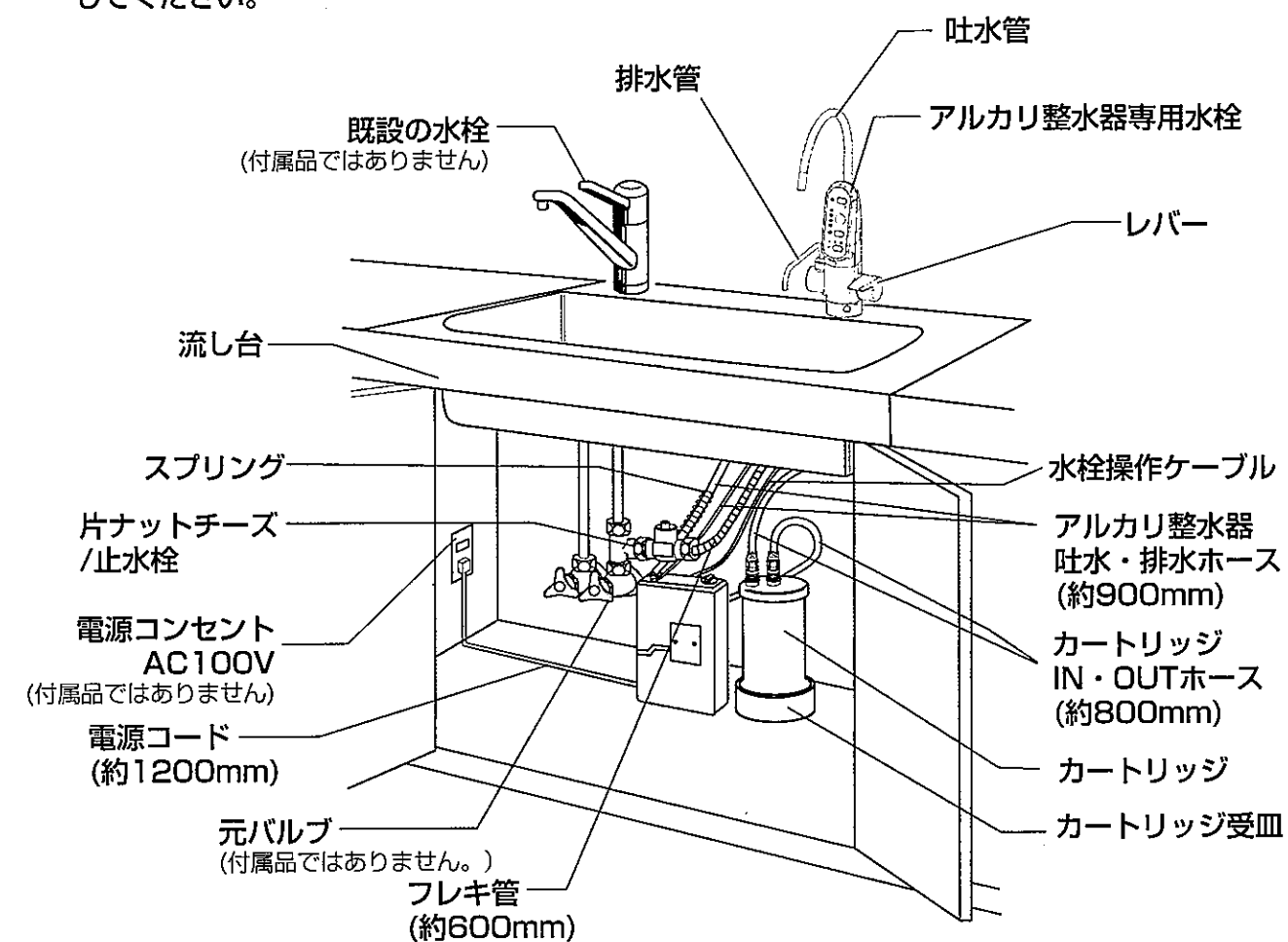


※パッキンは、各部位によって種類が異なります。

据付例

●据付例を下図に示します。

イラストは、あくまでも一例です。実際に据付される際は、お客様とご相談の上、決定してください。



●各ホースは、折れ曲がったり、山形配管にならないようにしてください。
(水漏れや適切なpH値の水が出ない原因になります。)

●配管および接続終了後は、付属の結束バンド（3本）でホースや水栓操作ケーブルを固定してください。

据付の前に(必ず確認してください)

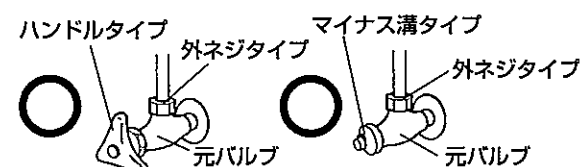
天板の材質を確認する。

- 材質によっては、穴が開けられない場合があります。不明な場合は、キッチンメーカーへ直接確認してください。

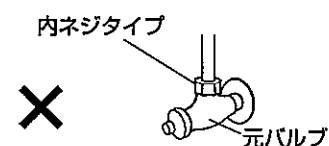
給水側止水栓のタイプを確認する。

- 元バルブが、外ネジタイプの場合は分岐金具を取り付けることができます。

取り付けできる元バルブ



取り付けできない元バルブ

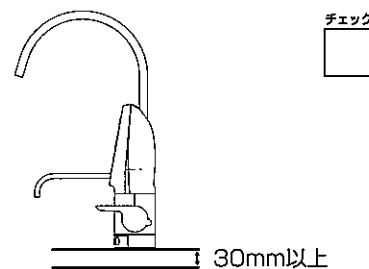


⚠ 注意

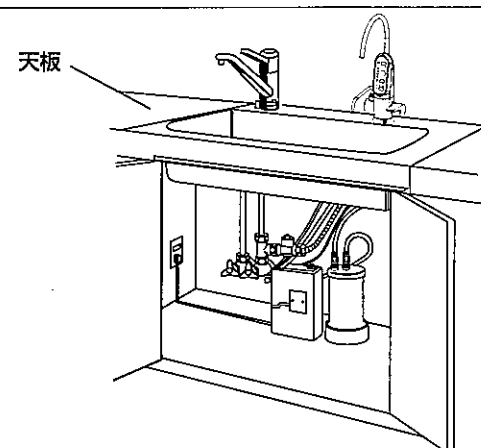
天板が、厚さ30mm以上の場合、穴あけしない。



禁止



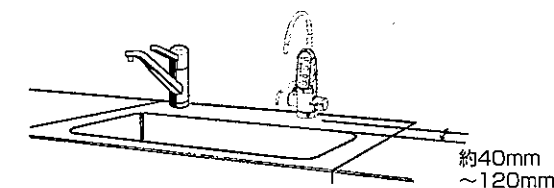
取り付けができませんので、万一、穴を開けた場合に補償問題になることがあります。



■アルカリ整水器専用水栓の位置決め

水がシンクの中に流れる位置

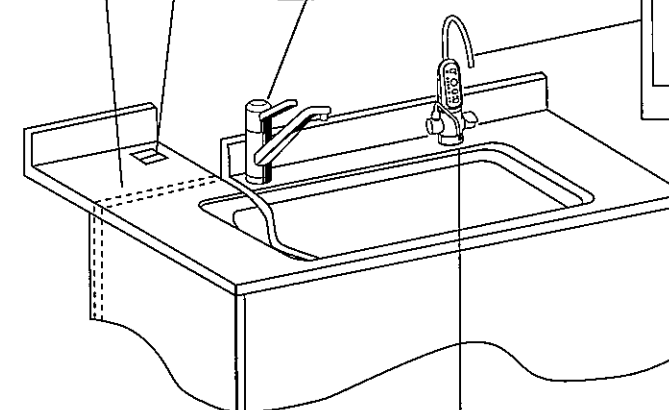
- アルカリ整水器専用水栓のセンターからシンクまで、約40mm～120mmの位置に設置する。



後板にあたらな位置 ☐

シンクポケット (石鹸、洗剤入れ) にあたらな位置 ☐

水栓にあたらな位置 ☐



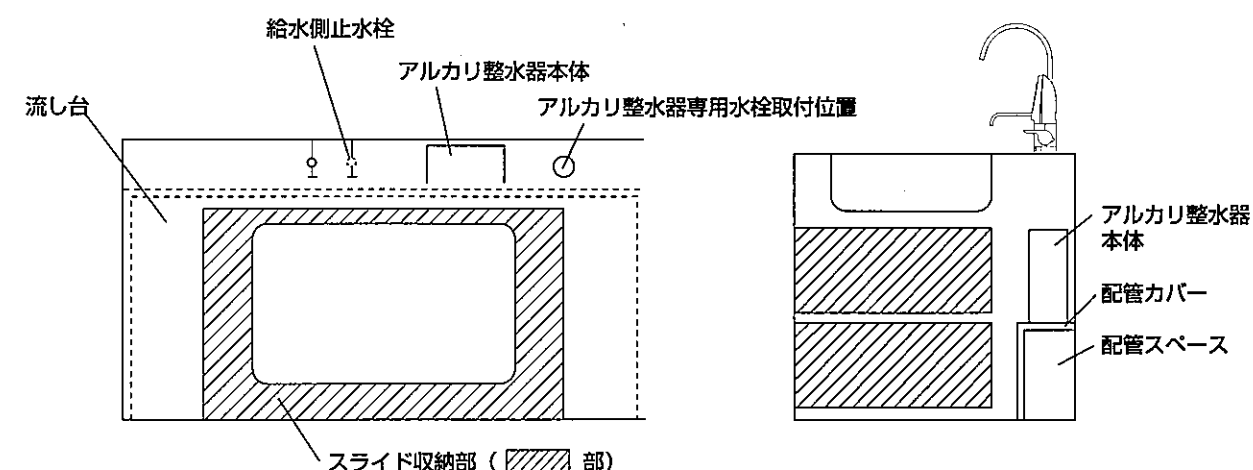
- 点検口から工事が出来る位置(300mm程度)
※キッチンメーカーの施工説明書に従ってください。

※水栓底部が天板の段差や曲面に乗り上げない位置

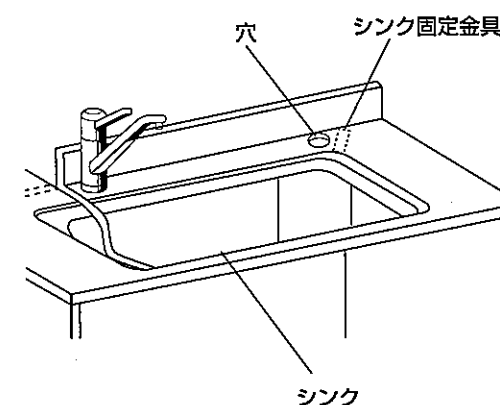
流し台のタイプを確認する

(下図は一例です。設置できないキャビネットもありますので、キッチンメーカーに直接ご確認ください)

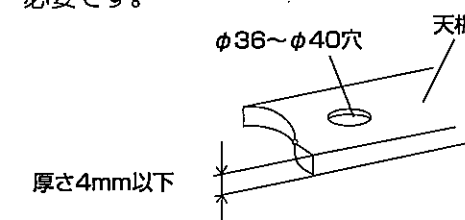
- スライド収納式のキッチンには、アルカリ整水器本体をキッチンの配管カバー上に置きます。アルカリ整水器本体やカートリッジを固定、もしくはズレ防止を行ってください。



裏側にシンク固定金具がない位置 ☐



ステンレス製の天板で補強板がついていない場合、また補強板が付いていても、天板との合わせた厚さが4mm以下の場合には補強板が必要です。



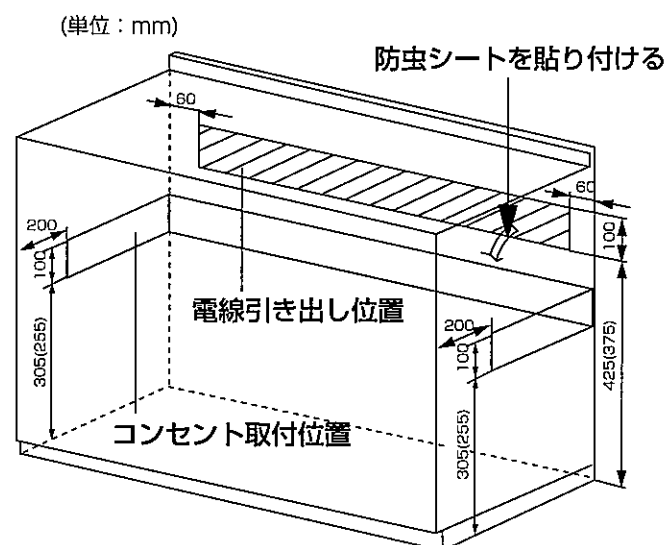
⚠ 警告

電源コードは、引き出しのレールや扉に挟まれないように配線する。コードが断線したり、被覆が損傷して、感電・ショート・火災の原因。

コンセントの取り付け

(電気工事士の資格が必要です。)

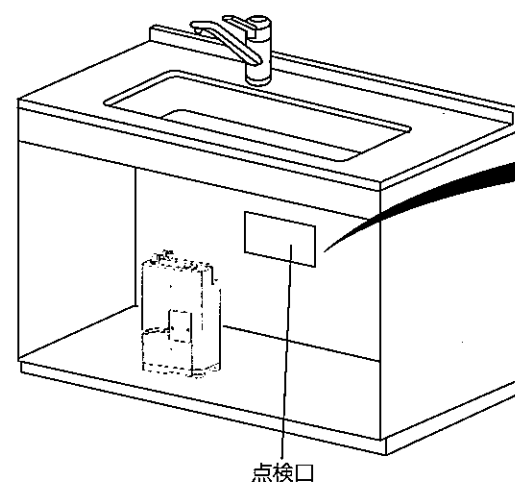
キッチンのキャビネット内または配管スペースに、本体電源用のコンセント(AC100V)が必要です。



※ () 寸法はキッチンの高さ80cmの場合

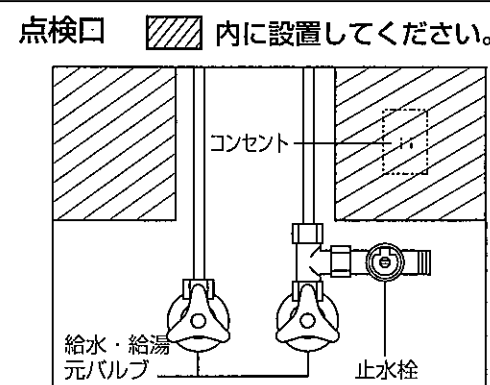
- 電線は、後板の 範囲から1.5m以上引き出します。
- コンセントは、キャビネット庫内の の範囲内で、アルカリ整水器本体設置側に取り付けます。
- 電線引き出し位置・コンセント取付位置は、キッチンの高さに合わせて調整します。
- 指定の範囲内に取り付けできない場合は、電源プラグがすぐに取りはずせる位置を選んで、コンセントを設置してください。
- 電線を引き込んだ穴には、防虫シートを貼り付けます。
(付属の防虫シートを切って、使用してください。)

キャビネット内にコンセントが固定できない場合



点検口

- キャビネット外(配管スペース)にコンセントを取り付けてください。



- 次のような場所に設置してください。
 - ・ 元バルブおよび止水栓より上部。
 - ・ 電源プラグの抜き差しがしやすいところ。
 - ・ 配管からの水漏れ・結露水がコンセントにかからないところ。



注意

配管スペースにコンセントを設置する場合、点検口のふたは、ネジ止めなど取りはずしに工具が必要な固定をしない。万一の異常発生時に、電源プラグが抜けず、漏電・発火の原因になることがあります。

アルカリ整水器専用水栓の据付方

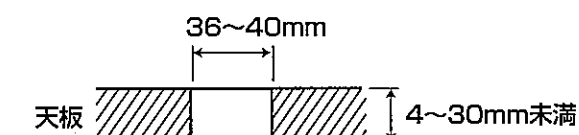
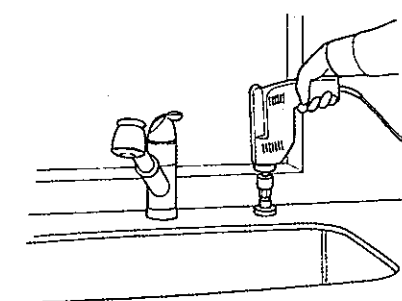
- 1 天板にアルカリ整水器専用水栓取付用の穴を開けます。

- 据付け位置の確認をして、ホールソーで穴を開けてください。
(穴径:直径36~40mm)
- 適合穴寸法は36~40mm、天板厚は4~30未満mmです。
- ・ 穴あけ後、バリやエッジをヤスリなどできれいに取り除いてください。
- ・ 穴あけ作業終了後は、くずをきれいに取除いてください。



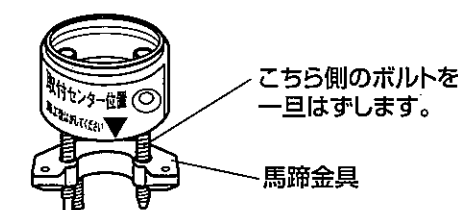
注意

ホーロー、天然石のシンク天板に穴を開ける場合はキッチンメーカーに相談する。
天板が、厚さ30mm超の場合は穴あけしない。



- 2 取付金具を取り出す。

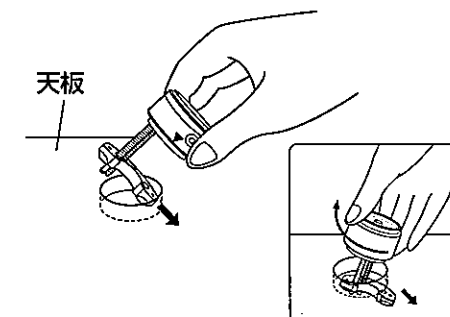
取付金具のボルトを片側のみはずします。



馬蹄金具

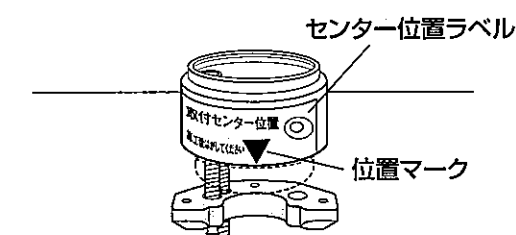
- 3 取付金具を天板の穴に差し込む。

- 馬蹄金具を天板の取付穴に入れます。
- 入りにくいときは、取付金具本体を右に捻りながら挿入します。



- 4 位置を合わせる。

- 図のようにセンター位置ラベルの「▼」マークが正面にくるように取り付けます。
- 天板とのすき間がないように取付金具を穴の中心に合わせてください。

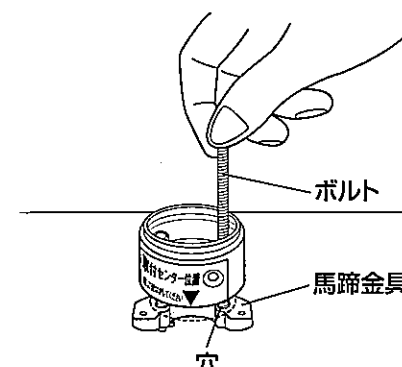


注意

天板とのすき間がないことを確認してください。
ガタツキ、水のしみ込みの原因になります。

- 5 取りはずしたボルトを差し込む。

- 2項で取りはずしたボルトを本体の穴に差し込みます。
- まっすぐに差し込み、馬蹄金具の穴に入れてください。



6 ボルトが穴に入っていることを確認します。

- 馬蹄金具の穴に入っていないと取り付けできません。

7 ボルトを締め付けます。

- 差し込んだボルトを付属の六角レンチをタテにして締め付けます。
- ※天板とのすき間がないように取付金具本体を天板の穴の中心に合わせながらボルトを締め付けてください。

8 もう一方のボルトも同様に締め付けます。

- ※馬蹄金具が途中までしか上がらない時は、ボルトを交互に締め付けてください。

⚠ 注意 逆回転しないでください。
固定具が破損し取り付けられないことがあります。

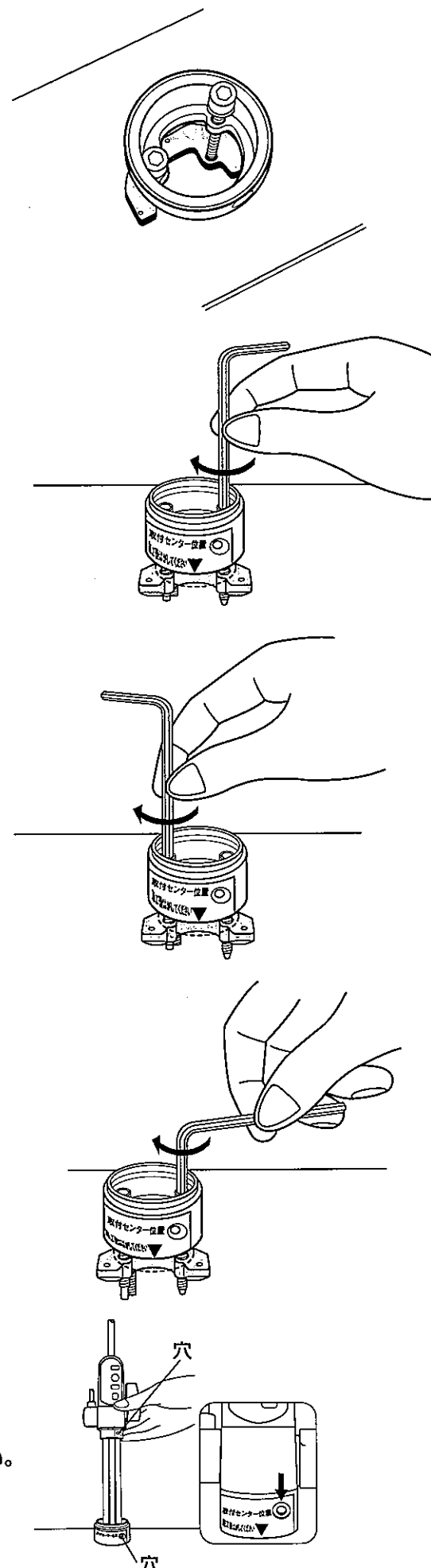
9 六角レンチを横にして、2本のボルトを増し締めします。

- 締め付けトルクの目安は4N・m(40kgf/cm)です。
- ※電動ドリルは、使用しないでください。

⚠ 注意 しっかりと締めてください。
水栓のガタツキや水のしみ込みの原因になります。

10 アルカリ整水器専用水栓を取付金具に差し込みます。

- 穴の位置を合わせて差し込みます。
- 水栓と取付金具の穴が合っていることを確認してください。
- ※穴が合っていないと取付けネジが入りません。



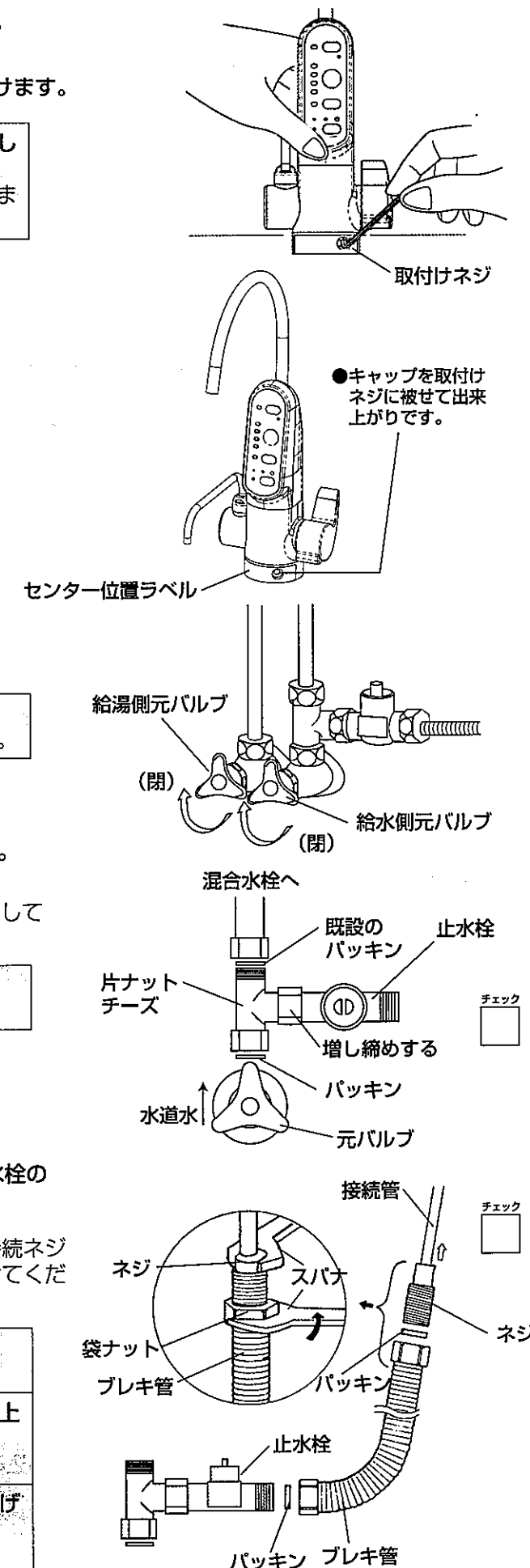
11 アルカリ整水器専用水栓を固定します。

- 水栓を押さえながら取付けネジを締めつけます。

⚠ 注意 水栓がガタつかないことを確認してください。
故障、水のしみ込みの原因になります。

12 キャップを取りつけて完了です。

- センター位置ラベルは、はがしてください。



配管

1 給水・給湯元バルブを閉めます。

⚠ 注意 給水・給湯元バルブを必ず閉める。
逆流して水漏れの原因になります。

2 給水管に片ナットチーズを取り付けます。

- ※片ナットチーズと止水栓は、必ず増し締めしてください。

⚠ 注意 パッキンは必ず使用する。
水漏れの原因になります。

3 フレキ管を接続します。

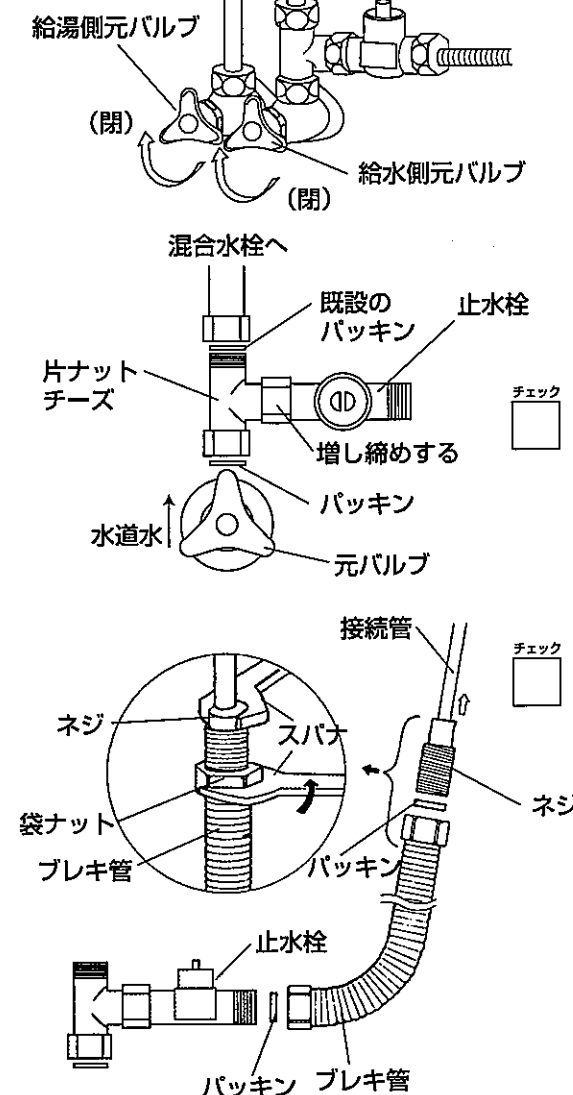
- フレキ管を止水栓とアルカリ整水器専用水栓の接続管のネジに取り付けます。

- ※袋ナットを取り付けるときは、接続管の接続ネジを片方のスパナで十分に支えて、締め付けてください。

⚠ 注意 給湯配管には、接続しない。
故障の原因になります。

フレキ管の曲げ半径を60mm以上に
する。
水漏れの原因になります。

フレキ管の同じ場所を何度も曲げ
ない。
水漏れの原因になります。

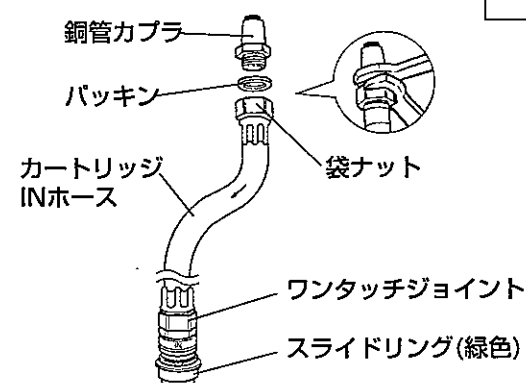


器具の据付

4 カートリッジINホースの袋ナットにパッキンを挿入し、銅管カブラを取りつめます。

- スパナで確実に取りつけてください。

⚠ 注意 パッキンは必ず使用する。水漏れの原因になります。



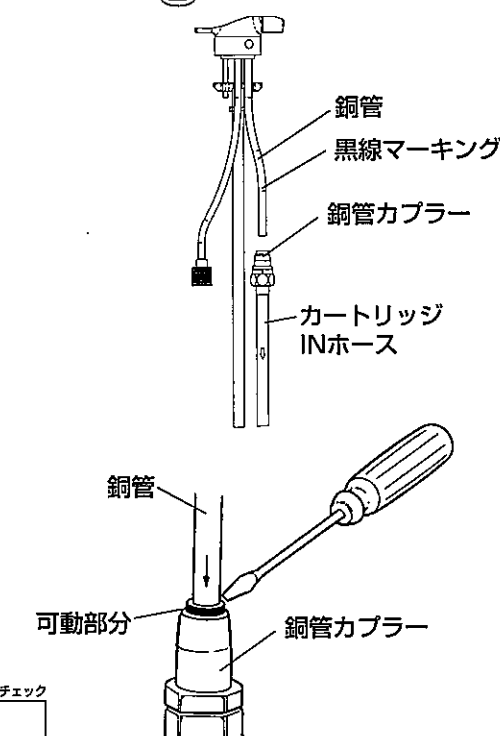
5 アルカリ整水器専用水栓の銅管にカートリッジINホースを接続します。

- カートリッジINホースを銅管に突き当たるまで差込みます。

※銅管カブラは、銅管にマーキングしてある黒線が隠れるまで差し込んでください。

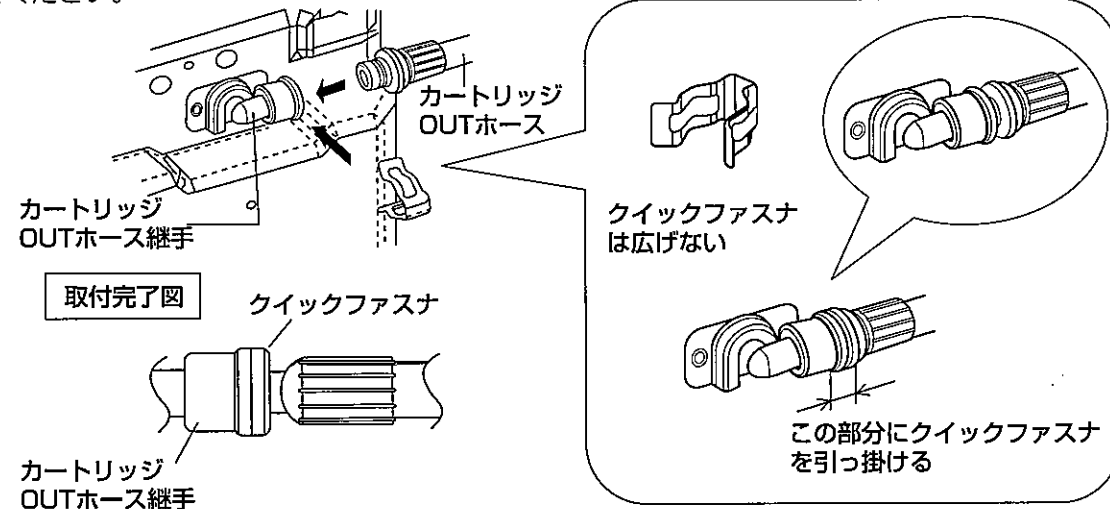
※銅管の切断はしないでください。

※誤接続をした場合、カブラ先端の可動部分をドライバー等で下に押し下げてはずし、もう一度、同じ要領で接続してください。



6 アルカリ整水器本体へカートリッジOUTホースを接続します。(接続後はホースを引っ張って抜けないことを確認してください。)

※クイックファスナは必ずアルカリ整水器本体の背面からカートリッジOUTホース継手にを取り付けてください。



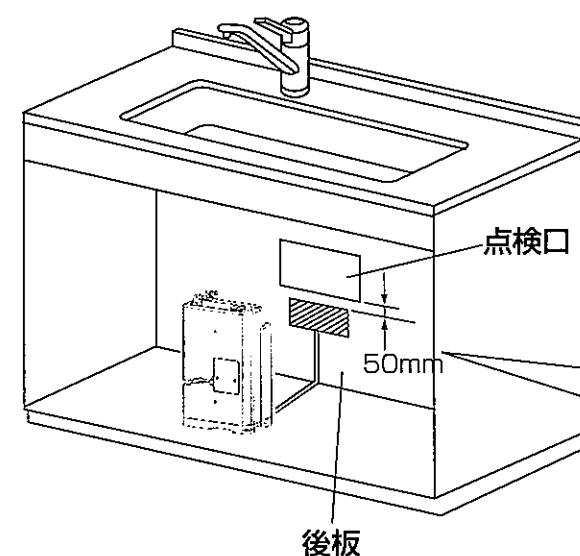
⚠ 注意 カートリッジOUTホースは最後まで差し込み、クイックファスナを確実に取り付ける。OUTホースは、先のリングがねじれないように、継ぎ手に平行に差し込んでください。不備の場合、水漏れの原因になり、大きな補償問題になることがあります。

コンセントをキャビネット外(配管スペース)に設けた場合

■後板が穴加工可能なキャビネットのとき

点検口の近くに配線用の穴をあけて、電源コードをコンセントに接続します。

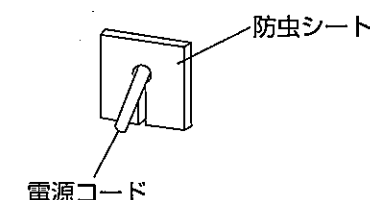
- 配線後は、貫通穴を防虫シート(付属部品)でふさいでください。



- 点検口は必ず設けてください。
- の範囲内に、穴あけをしてください。

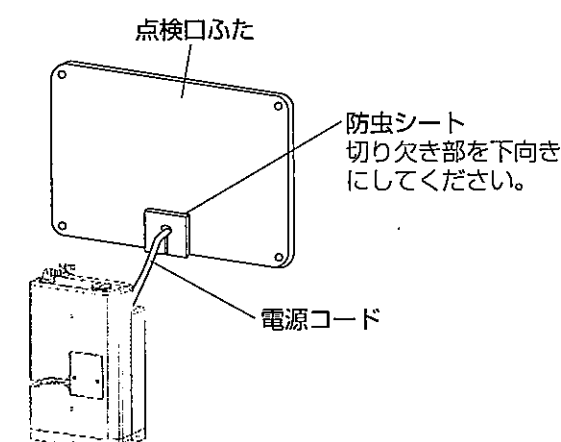
φ27~φ29mm

- 配管後、防虫シート(付属部品)を貼りつけてください。

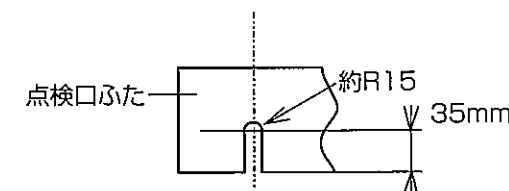


■後板が穴加工できないキャビネット(天然大理石・ホーローなど)のとき

点検口のふたに切り欠きをもうけ、電源コードをコンセントに接続します。



- 点検口ふたを、切り欠いてください。



- 防虫シートは、必ず切り欠き部を下向きにして貼り付けてください。(上向きに貼ると、点検口ふたが取りはずせません。)

注意 電源プラグは据付が終了するまで差し込まない。

アルカリ整水器本体の据付

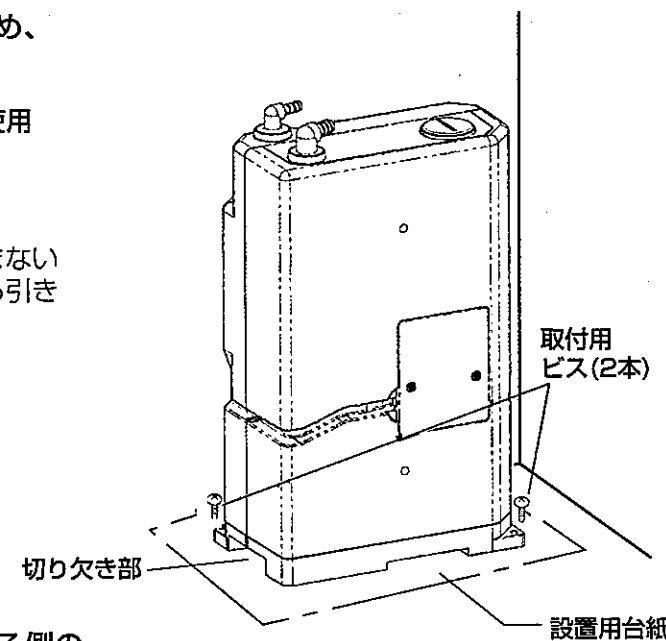
- アルカリ整水器本体は付属の取付用ビスで固定するか、付属のL字固定金具でズレ防止を行います。
- アルカリ整水器本体の右側を、シンク内の壁面に近づけて設置する場合は、先に水栓操作ケーブルの接続(P24ページ参照)をして、本体の設置を行ってください。

アルカリ整水器本体を取付用ビスで直接固定する場合

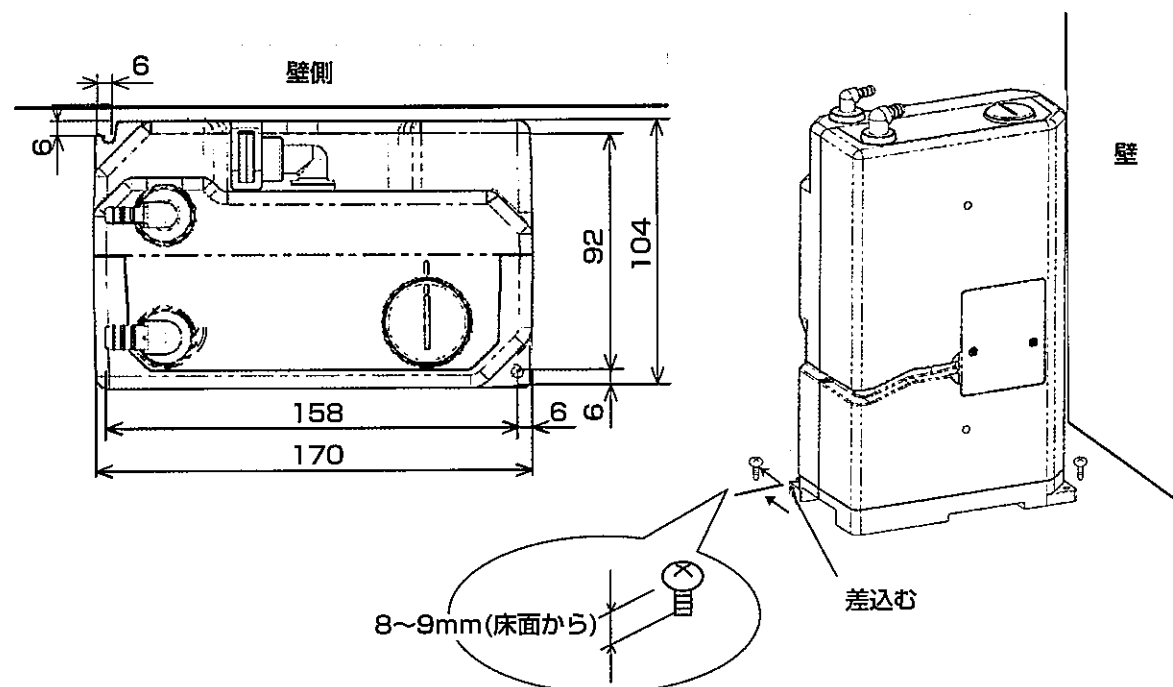
- 1 アルカリ整水器本体の設置場所を決め、付属の取付用ビスで固定します。

- ビス穴の位置は付属の設置用台紙を使用して穴位置を決定してください。

※電源コードは本体と床の間で噛みこまないよう、本体側面下部の切り欠き部から引き出してください。



- 2 アルカリ整水器を設置した状態で後ろ側の取付用ビスを締め付けできない場合は、先に後ろ側の取付用ビスを締め、本体を差し込み、次に前側を固定します。



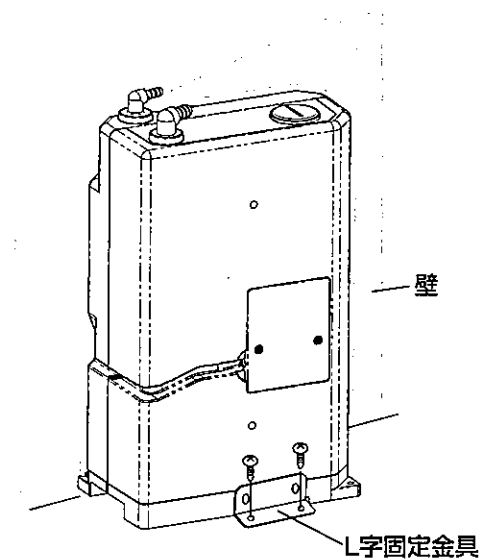
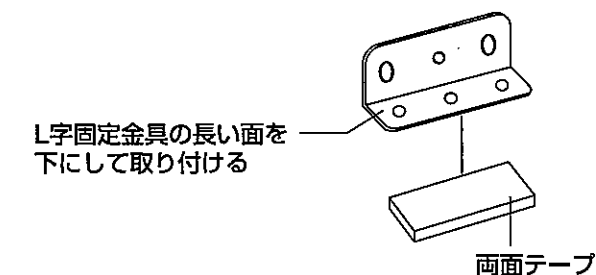
アルカリ整水器本体をL字固定金具で固定する場合

- L字固定金具をアルカリ整水器本体の外に出す場合
(前面にL字固定金具取付スペースがあるとき)

- 1 アルカリ整水器本体を壁面にあてます。

- 2 前面にL字固定金具が当たるように取付用ビスで固定します。

- 取付面が、ホーローなどの場合は両面テープで床に固定してください。

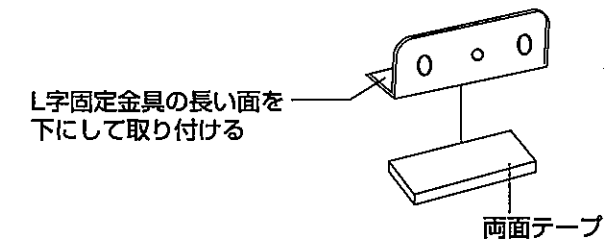


- L字固定金具をアルカリ整水器本体の下に入れ込む場合
(前面にL字固定金具取付スペースがないとき)

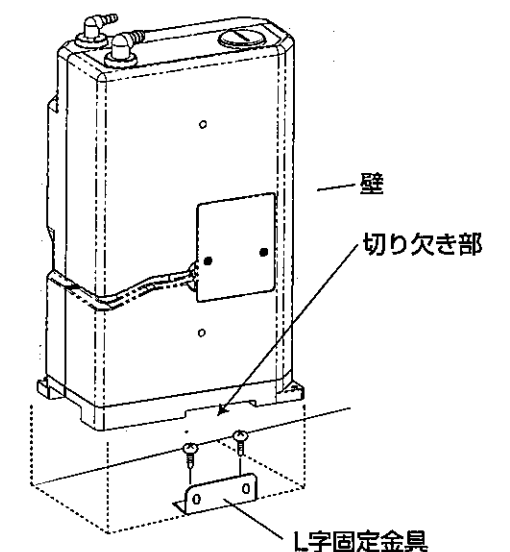
- 1 アルカリ整水器本体を壁面にあてます。

- 2 L字固定金具が当たるように取付用ビスで固定します。

- 取付面が、ホーローなどの場合は両面テープで床に固定してください。



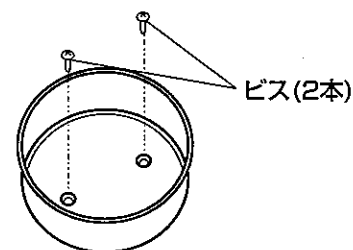
- 3 アルカリ整水器本体の切り欠き部にL字固定金具をあわせて、本体を設置します。



カートリッジの据付

1 カートリッジ受皿を設置します。

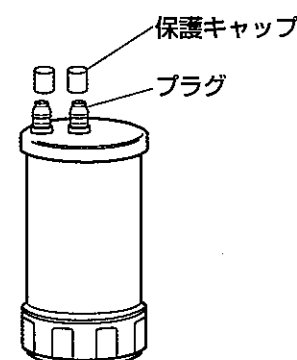
- ビスで固定する場合。
カートリッジ受皿を床に置き、付属のビス(2本)で固定します。



- 床に両面テープで固定する場合。
カートリッジ受皿の裏面の保護紙をはがし、床にしっかりと押さえつけます。

2 カートリッジのプラグ先端の保護キャップをはずします。

※保護キャップが飛び出すことがあります。
確実につまんで取りはずしてください。



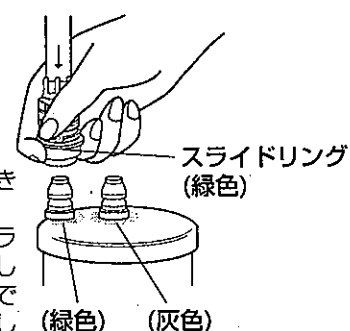
3 カートリッジIN・OUTホースのワンタッチジョイントをカートリッジのプラグに接続します。

カートリッジの緑色、灰色のシールとスライドリングの色をあわせて接続してください。

※接続は、必ず(緑色)→(灰色)の順番をお守りください。
[取り外しは、(灰色)→(緑色)の順です。]

注意

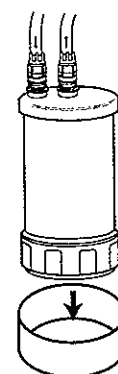
スライドリングを上引き上げたままワンタッチジョイントを垂直に、プラグに合わせてしっかり押し込みます。いちばん奥まで差し込まれているか、正しく接続されているか、再度確認してください。



注意 スライドリングとプラグの色を合わせる。
機器の故障の原因になります。

4 カートリッジ受皿へカートリッジを入れます。

※ホースは結束バンドで固定してください。
ただしバンドはしめすぎないように注意してください。



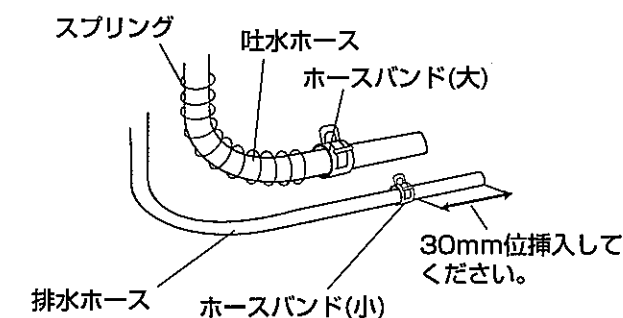
注意 カートリッジを設置する際は、ホースを折り曲げたり、ねじったりしない。
またホースやカートリッジは給湯配管に触れない。
変形、故障の原因になります。

吐水、排水ホースの接続

1 アルカリ整水器専用水栓の吐水ホースにスプリングを挿入します。

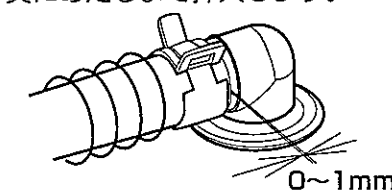
2 アルカリ整水器専用水栓の吐水ホース、排水ホースに付属のホースバンドを挿入します。

- ホースバンドは(大)(小)の2種類があります。

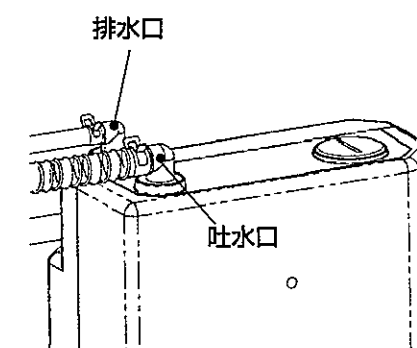


3 アルカリ整水器本体の吐水口と排水口に各ホースを接続し、ホースバンドで固定します。

※各ホースは下図のように確実に接続してください。
ホースは奥にあたるまで挿入します。

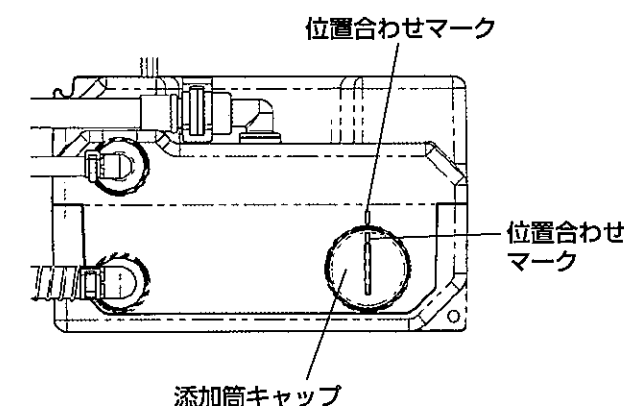


チェック



注意 ホースは折り曲げたり、ねじったりしない。
水漏れや適切なpH値が得られない原因になります。
ホースバンドは必ず取り付ける。
水漏れの原因になります。

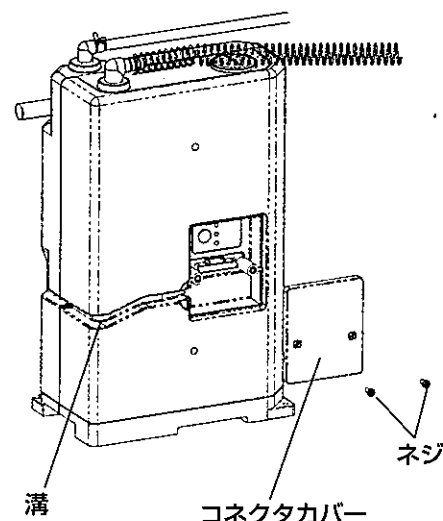
※テンカトウキャップと本体の位置合わせマークの位置を確認してください。
位置合わせマークがずれている場合は、コインで、キャップを指定の位置まで回して合わせます。



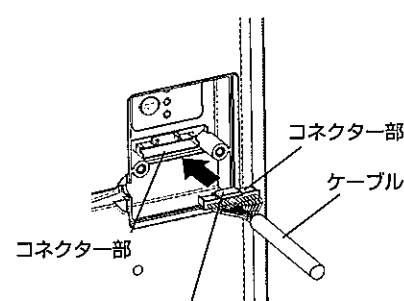
水栓操作ケーブルの接続

- 1 アルカリ整水器正面のネジをはずし、コネクターカバーを取りはずします。

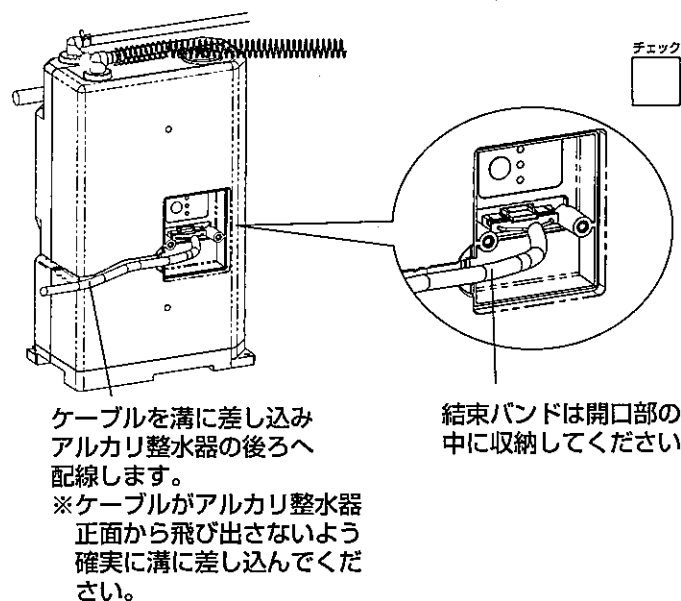
※取りはずしたコネクターカバー、ネジをなくさないように注意してください。
コネクターカバーは浄水能力設定後(25ページ参照)再度取りつけます。



- 2 水栓操作ケーブルを接続し、配線します。



コネクターの爪を上にしてピンを折り曲げないようにして奥まで差し込みます。差し込んだ後、ケーブルの根元を持ち軽く引っ張り抜けないことを確認してください。



注意 コネクター部を逆にしたり、無理に差し込まない。コネクターピンが破損する原因になります。

浄水能力の設定

工場出荷時には浄水能力は8,000Lに設定されています。
付属のカートリッジUZC2000Tを使用する場合は、浄水能力を設定する必要はありません。

- 1 電源プラグをコンセントに差し込みます。



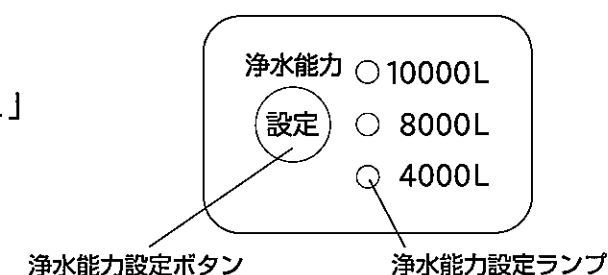
注意 交流100V以外は使用しない。
機器の故障の原因になります。

- 本器は、交流100V以外のコンセントに接続するとブザーが鳴り続け安全のため機器の動作を停止します。電源プラグをコンセントから抜き、コンセントの電圧を確認してください。

- 2 浄水能力設定ボタンを3秒以上押します。

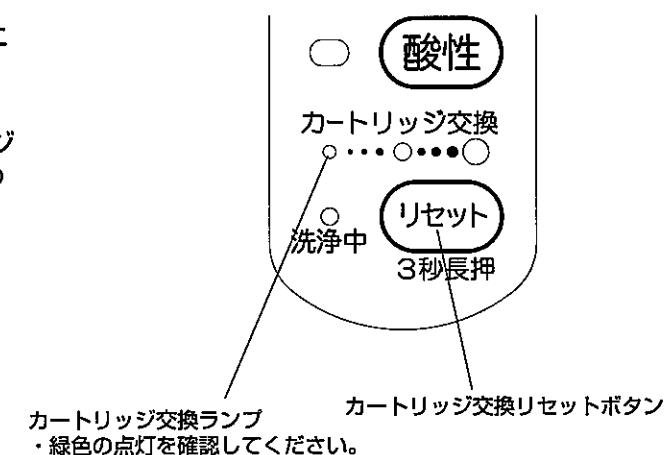
ボタンを3秒以上押すたびに
「8000L⇒10000L⇒4000L⇒8000L」
の順で浄水能力設定ランプが切替ります。

- 使用する浄水能力のランプを点灯させます。

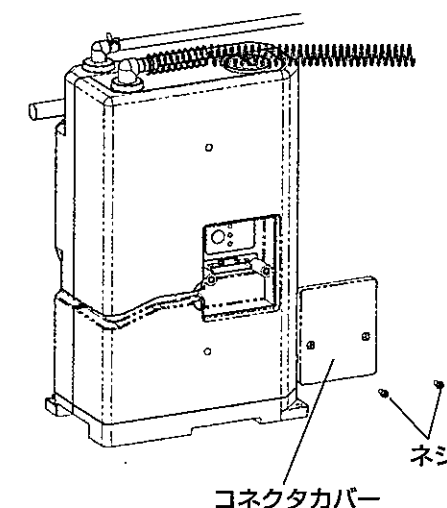


- 3 カートリッジ交換リセットボタンを3秒以上押します。

- 受付けブザーが「ピッ」と鳴り、カートリッジ交換ランプ(緑色)が5秒間点滅し、点灯に変わります。

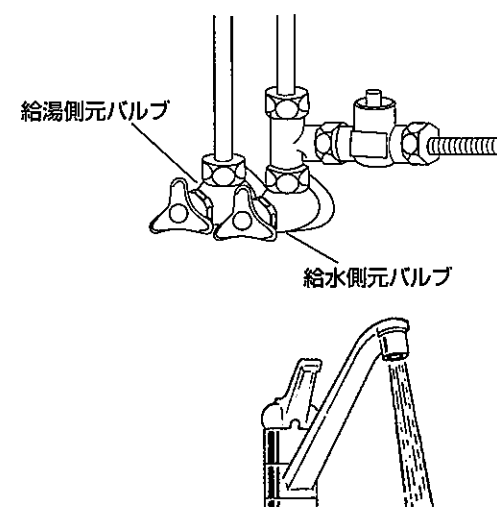


- 4 アルカリ整水器本体にコネクタカバーを取り付け、ネジを締め付け固定します。

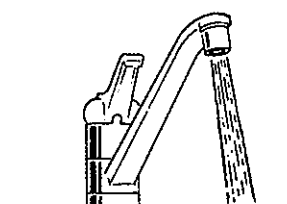


最終点検

1 元バルブを開きます。 ☐



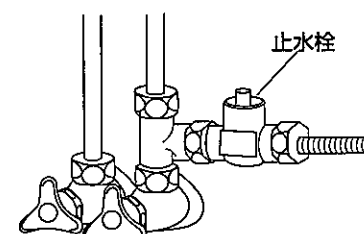
2 既設の水栓から水を十分に流します。 ☐



注意

既設の水栓で配管内の金属くずや樹脂くすなどのゴミを流した後、カートリッジを取りつけたアルカリ整水器に水を流す。
カートリッジを取りつけないで通水するとゴミが詰まり故障の原因になります。

3 アルカリ整水器側の止水栓を開きます。



4 電源プラグを差し込みます。 ☐

浄水モードランプ(緑)、カートリッジ交換ランプ(緑)が点灯していることを確認します。

下記の手順でモードボタンを押し、選択したモードランプが点灯するか確認してください。

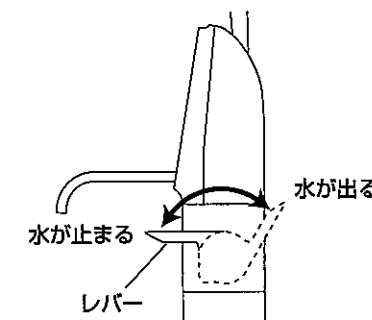
- (飲用) (アルカリ1点灯) → (飲用) (アルカリ2点灯) → (飲用) (アルカリ3点灯) → (酸性) (酸性点灯) → (強アルカリ) (強アルカリ点灯)
- また、モードボタンを押した時に、ブザーが「ピッ」と鳴るか確認してください。

5 (飲用) ボタンを押し、アルカリ1を選択し、☐ レバーをゆっくり開き、カートリッジ、アルカリ整水器本体へ通水します。

- 吐水管、排水管から水が出ていることを確認してください。
(浄水時は、排水管からは水が出ません。また、通水量が少ない時も排水管から水が出ません。)
- ※通水開始時に空気がでるので、レバーはゆっくり開けてください。

6 配管各部の水漏れがないことを確認します。 ☐

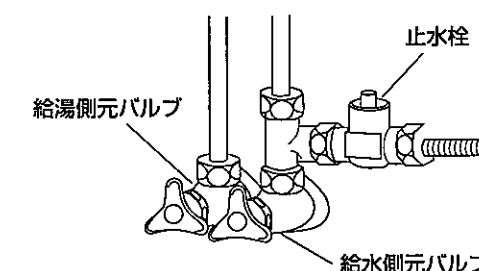
- ※レバーの開閉操作を繰り返し行って、水漏れが無いことを確認してください。



7 流量の調整をします。

設置条件を確認のうえ、レバー全開で適量な水量がえられるよう止水栓で調整します。

- ※吐水管から約3L/分の水量が、得られるよう調整してください。



据付完了後、据付説明書、取扱説明書、保証書、付属品(pH測定液)と一緒に必ずお客様にお渡しして、大切に保管していただくよう説明してください。

最終点検トラブル対応表

現象	考えられる対応と原因	参照ページ
操作パネルのランプが点灯せず、ブザーが鳴りつづける。	交流100V以外の電源に接続されています。 電源プラグをコンセントから抜き、コンセントの電圧を確認してください。	14,25ページ
操作パネルのランプが全く点灯しない。	●電源プラグがコンセントから抜けていませんか。	14ページ
	●水栓操作ケーブルは、確実に接続されていますか。	24ページ
操作パネルのスイッチ操作ができないまたは、異常がある。	水栓操作ケーブルは、確実に接続されていますか。	24ページ
吐水口や排水口から水が出ない。または、水量が少ない。	●各ホースが折れ曲がっていませんか。	23ページ
	●アルカリ整水器専用水栓のハンドルは所定の位置まで開いていますか。	27ページ
	●止水栓をしぼりすぎていませんか。	26ページ
配管から水漏れしている	各配管、ホースには指定のパッキン、ホースバンド、クイックファスナを確実に取りつけていますか。	17,18ページ 22,23ページ